卒業論文

スタジアムで生まれる新たな社会的意味空間

――J リーグファンの意識と行動から――

2014 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2018 年 1 月　提出

要約

本論文では、J リーグのチームを応援しているファンの意識や行動を調査し、スタジアムで観戦することやチームを応援することは、ファンの生活のなかにおいてどのような意味を持っているのか、またどのような機能を持っているのかについて考察している。

まず、スポーツを観るということについての先行研究にくわえて、デュルケーム（1912=2014）の聖と俗についての理論や、シュッツ（1962=1985）の多元的世界の理論を検討して、日常的な出来事と非日常的な出来事の区別について検討している。また、スタジアムという空間を考えるために、磯村（1968）とオルデンバーグ（1989=2013）の「第三空間」や「サードプレイス」の概念の特徴をまとめた。

つづいて、ファンの聞き取り調査の分析を行っている。観戦のきっかけについては、偶然性の高いきっかけでスタジアムに初めて足を運んでから、ファンの応援やスタジアムの雰囲気に魅力を感じて継続的に観戦に行くようになった様子が分析された。また、スタジアムにひとりで観戦するファンが楽しめる場所としての機能があることや、既存の人間関係を深める機能があることが分析された。また、意識としては、「ウチ」や「サポーター」などの表現に注目し、自分をチームの一員だとみなす「主体的意識」と、チームのことを客観的に捉える「客体的意識」の 2 つのタイプの意識をもつファンがいることがわかったが、このファンの 2 つのタイプは関心の大きさの違いではなく、関わり方や捉え方の違いであることがわかった。ファンとしての経験が彼らに与えた変化として、①今まで関わりを持たなかった人との交流が生まれたこと、②生活のなかでの楽しみが生まれたこと、③J リーグのタイムスパンにあわせた生活になったこと、の 3 点を挙げた。

以上から、スタジアムにおけるファンの特徴を①匿名の親密性、②ファンの生活に織り込まれる継続性、③応援すること自体の自己目的性だとした。そして、多元的現実論などとの比較をしながら、サッカーファンにとってのスタジアムのような、普段とは違う価値観や社会関係をもつ空間を、「標準の生活空間」と対比して新たに「獲得」される「社会的意味空間」と定義している

最後に、ファンにとってのスタジアムという社会的意味空間が持つ機能や可能性について検討し、学校文化や会社文化などの標準の生活空間で生きづらさを感じる人々を支え、受け入れるサブシステムになり得ることを示している。

目次

1　はじめに 1
1.1　研究の背景 1
1.2　用語の整理 2
1.3　とあるJリーグ観戦の1日 3
2　先行研究の整理 8
2.1　「スポーツを観ること」についての研究 8
2.1.1　なぜスポーツを観ることによって興奮するのか 8
2.1.2　「ファンになる」ということ 9
2.2　スポーツと宗教 11
2.3　聖俗理論と多元的現実 13
2.4　超越的な体験について 16
2.5　都市とスタジアム空間 18
3　Jリーグについて 21
3.1　フットボール文化史 21
3.2　海外のサッカーファン 22
3.3　観戦者調査より 24
3.3.1　観戦者のプロフィールについて 24
3.3.2　スタジアムでの観戦行動について 26
3.4　Jリーグの活動と地域密着の理念 28
4　ファンの語り 30
4.1　調査概要と分析方法 30
4.2　ファンの行動 30
4.2.1　観戦のきっかけ 30
4.2.2　2度目以降の観戦とファンの応援 32
4.2.3　ひとりでの観戦 33
4.2.4　サッカー観戦と既存の社会関係 35
4.2.5　他のファンとのかかわり 36
4.3　ファンの意識 38

4.3.1　選手への意識 38
4.3.2　チームに対する意識 42
4.3.3　ダービー 47
4.3.4　地域を代表するチーム 49
4.4　ファンになることで得られるもの 51
4.4.1　勝敗を超えて 51
4.4.2　ファンになる前となった後で変わったこと 55
4.5　小括 58
5　新たな社会的意味空間の獲得 60
5.1　聞き取り調査から導かれること 60
5.2　匿名の親密性 60
5.2.1　スタジアムにおける匿名性 60
5.2.2　親密性について 62
5.2.3　ファン同士の親密性と集合的記憶の共有 62
5.3　ファンの生活に織り込まれる継続性 64
5.4　応援すること自体の自己目的性 65
5.5　新しい社会的意味空間の獲得 66
5.5.1　多元的現実の二項対立化 66
5.5.2　社会的意味空間の獲得の図式 66
6　スタジアムという社会的意味空間のもつ可能性 70
6.1　階級突破 70
6.2　日常を支えるもの 70
6.3　ひとりの居場所 71
6.4　サブシステム機能と福祉的可能性 73
おわりに 75
〔文献〕 76
あとがき 79